

# 北関東

真岡鐵道の家路

初乗車の機関車なのに、なぜ懐かしいんだ？

太平洋C益子、益子CCなど、南栃木方面のゴルフ場には乗車したいのが真岡鐵道だ。この路線は、茨城県下館市から栃木県茂木町までの41.9キロを結んでいる。また、土・日曜や祭日には、蒸気機関車が牽引する観光列車「SLもおか号」が、民家が散在する田園風景のなかを走ることでも知られている。

そんな路線で途中下車してみたいのは益子駅。「焼き物の里」として有名な益子焼が作られている土地だ。380もの窯元と50の陶器店が存在しており、陶器の産地として日本全国にというよりも、海外にもその名が知られている。

益子駅から市街地までは徒歩で行ける距離だった。陶器店や窯元がずらりと軒を連ねる益子本通りを散策する前に立ち寄ってみたのがそば処「如庵」。隣の真岡市に居を構えながらも、益子の町を愛してやまない店主の飯塚裕さんが、10年前にオープンさせた蕎麦屋である。

「益子が大好きで、いずれこの町で店を持ちたいと考えていたんです。益子に来ると、なんとなくのんびりとして、落ち着いた気分になりますからね。ゴルフ帰りのお客さんも、よくおそばを食べにいらしてくれています」



如庵は飯塚さんの次女・純子さん夫妻と共に営まれている。  
如庵(益子町益子 0285-70-1068)



益子の隠れた名産、そばから取れた地粉で作られた「庵」の十割そば。地元客の舌を満足させている。



駅そばの豆腐屋で売られていた生ゆば。1枚300円と非常にリーズナブルだった。



「SLもおか号」が走る日は、始発駅の下館駅が鉄道ファンや家族連れで賑わう

